

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに 学んで世界の 明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<http://www.uminoko.jp/>

新しい「うみのこ」の建造状況 その2

【所長 青木 正士】



「ありし日の今津カッター」

2学期も半ばを過ぎ、10月末でびわ湖フローティングスクールのカッター活動が終了しました。35年にわたり実施してきたカッター活動ですが、新しい「うみのこ」にはカッター艇を搭載しないため、これからは琵琶湖大橋港での寄港地活動としてのみ実施することになります。先日、カッターを現「うみのこ」から降ろし、現在ドックでの整備をしており、整備が終わればマリナーにて保管されることになっています。長浜港でも行われてきたカッター活動。過去には、今津港、彦根港、長命寺港、近江舞子港、柳ヶ崎港、大津港でも実施してきました。それぞれの港で、その風景を満喫するように実施してきたカッター活動ですが、カッターの積み降ろしは、

先生方にとって大変な作業でした。場所は限定されるものの、準備にかかる時間や労力が少なくて済むようになります。

さて、新「うみのこ」の新しい機能について、前回に続いていくつか紹介します。

現船には出入港のときに、船首の船底からバウスラスターといわれるスクリューを降下させ、船を横に動かしたり旋回させたりすることができました。このスクリューも船尾に付いているZペラと同じく、360度旋回することができます。しかし、船底から約80cm降下させる必要があります、喫水1mの現船でも濁水の時には、浅い港には入港できないことがありました。新「うみのこ」にもバウスラスターが取り付けられていますが、船底から降下させない、ポンプジェット式を2基取り付けられています。船底から水を吸い込み、360度旋回するノズルの方向に水流を噴射させます。新「うみのこ」の喫水は1.5mと深くなりますが、バウスラスターを降下させない分、浅いところでも航行できることとなります。

船の屋上には、太陽光パネルのほかに太陽熱温水器が設置されます。

太陽光パネルで発電した電力は学習室兼食堂の天井灯に使用し、太陽熱温水器での温水は実験室などで使用できるようになっています。自然エネルギーを少しでも活用し、CO₂の排出削減を図っています。

船の設備も工夫されています。エレベーターは大きくなりリフターも使いやすくなります。保健室はベッドを1床から3床に増やし、室内にシャワーがつかます。保健室のとなりには看護室も設置されます。全員が使用するシャワー室の奥には乾燥室が用意され、寄港地活動などで濡れたカッパや靴を乾燥できるようになります。これまで循環型だった水洗トイレは、節水型真空式でほとんどが洋式になります。大きな穴に物が落ちてしまう心配はなくなるでしょう。まだまだ、新しい機能や設備があります。今後もお伝えしていきます。



現「うみのこ」のバウスラスター



新「うみのこ」のバウスラスター